

着眼大局



滋賀銀行 常務取締役
林 一義

「グリーン・オーシャン」

自然との一体感に魅せられ、40年以上セーリング(ヨット)を続けていますが、海が荒れると大自然の脅威を実感します。

特に、風の力だけで走るヨットは、いくら天候が荒れようともすぐには引き返すことができず自力で耐えなければなりません。その時に備え、操船技術を磨き、装備をメンテナンスし、気象や海象を理解するなど、安全に航海するための技能や知識・心構えを習得する必要があります。これが、いわゆる「シーマンシップ」であり、一面では「リスク管理」とも言えます。

「リスク」の語源は大航海時代にまでさかのぼり、「勇気を持って試みる」という意味があるそうです。リスクがあるからやめるのではなく、リスクを想定しそれに対応できる備え(リスクコントロール)

をして航海に出ることが重要なのです。

さて、ビジネスの世界では、企業は競争の激しい既存市場「レッド・オーシャン」から脱するため、競争のない未開拓市場「ブルー・オーシャン」へ向けた不断のリスクテイクが必要とされます。

さらに昨今では、地球環境に対する危機意識の高まりから、消費者の価値観やライフスタイルも変わりつつあり、加えて「企業の社会的責任(CSR)」もより高い次元で求められることより、「四方よし(売り手・買い手・世間・地球)」の「グリーン・オーシャン」とも言われる新たな市場の創造・開拓が急務となっています。

知恵と勇気をもって、「グリーン・オーシャン」に向けた順風満帆の船出が期待されます。

県内データ あれこれ

● 産業別データ～平成24年経済センサス活動調査より～

滋賀県内のスポーツ産業の市場規模は、300億円超

国体開催で高まるスポーツ機運と 関連産業の活性化に期待

6年後の東京五輪では、数十兆円規模での経済波及効果が発生すると期待されている。県内でも来年の高校総体や2024年の国体など、大規模なスポーツイベントが開催されることとなり、これからの動向に注目が集まる。そこで今回は、総務省の「経済センサス活動調査」から、主なスポーツ産業の市場規模についてみてみたい。

滋賀県内のスポーツ産業(4産業合計)の年間売上高は333億円で、全国の同2.6兆円の約1.3%を占めている。このうち最も規模が大きいのは、ゴルフ場やフィットネスクラブなどの「スポーツ施設提供業」で、210億円に上る。次いで、「スポーツ用品小売業」(105億円)、スイミン

グスクールなどの「スポーツ・健康教授業」(14億円)、「スポーツ・娯楽用品賃貸業」(4億円)が続く。

過去、大規模なスポーツイベントが開

催されるたびに、一時的ではあるものの参加人口が増加してきた。10年後の国体に向けて、県内のスポーツ産業には大きな商機が到来することになるだろう。

スポーツへの機運の高まりとともに関連産業が活性化し、県内景気への刺激となることに期待したい。

(株)しがぎん経済文化センター 中村 雅臣

